2015/16 WEEKLY BULLETIN

国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区B

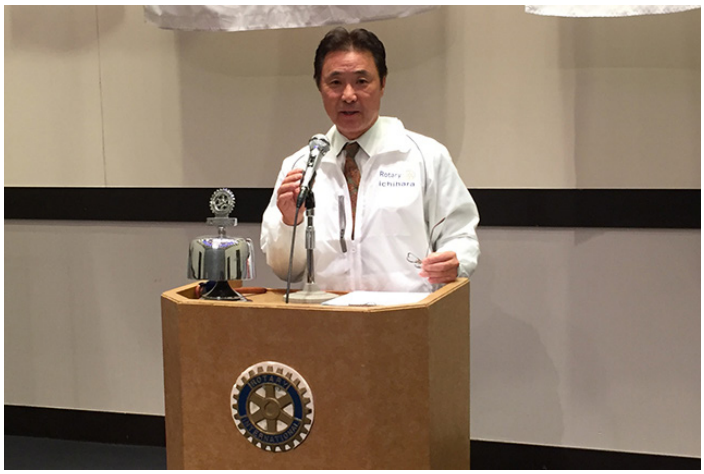
市原ロータリークラブ会報

世界へのプレゼントになろう

第 2521 回例会　2015 年 11 月 4 日（水）| SAA（司会）／平野会員　会報担当／伊藤会員

事務局　市原商工会議所内　市原市五井中央西 1-22-25　　例会場　五井グランドホテル

●点　鐘　市原 RC 会長　万崎英正
●ソ ン グ　君が代　奉仕の理想　4 つのテスト
●お客様　光風台花と緑の会様　市原市楽友協会様
●会長挨拶　市原 RC 会長　万崎英正



本日は光風台の花とみどりの会のみなさん、ようこそおいでくださいました。日頃のご活躍大変感謝いたしております。また市原市学友会さん、ようこそおいで下さいました。奨学生の李さんもようこそおいでくださいました。後の卓話よろしくお願い致します。

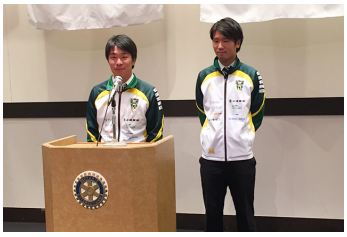
先程の理事会でも協議されました、RC 活動用ジャンパーの件ですが、モデルで私と平野幹事が着てみました。どうですか？　今まで活動用のユニフォームが当クラブになかったことが不思議なくらいです。よくロータリークラブの存在が市民に認知されていないと言われていますが、これからはお金を支援するだけのスタイルはやめましょう。　ここにいらっしゃる花とみどりの会のみなさんやボランティア活動している方達と一緒に汗を流して、活動に参加するロータリアンになりましょう。そうすれば自然と市民に認知されるロータリークラブになっていくはずです。そのために、このジャンパー、ポロシャツ、帽子を多いに活用して爽やかな汗をかきましょう。それが真のロータリアンだと思います。

●幹事報告

市原市学友協会様からコンサートの招待状をいただいております。
山内一平様が入会致しました。市原ロータリークラブのネーム入り活動用ジャンパー、ポロシャツ、帽子を作ります。

委員会報告

川島会員　常泉会員が瑞宝小綬章を受賞されました。
米山功労賞で福原会員、岡本会員が表彰されました



ボンズ市原・山根様、藤本様よりお礼のあいさつ

本年は、残念ながらJFLへの昇格はできませんでしたが、来年は必ずや昇格できるようにがんばります。多大なご支援をいただき感謝申し上げます。また来年の応援もよろしくお願いします。

市原ロータリークラブ緑化活動功労者表彰

光風台花と緑の会の萱野みつ子様、永峰徳子様、斉藤勝利様、金田茂様に万崎会長より感謝状が贈呈されました。

本日のメインプログラム

米山奨学生卓話

米山奨学生　李　俊傑様

皆さん、こんにちは!
お元気でしたか?
もはや11月になりましたね。今年も後2ヶ月弱しか残っていないことを考えると、時間は本当に速いものだなと感心します。

どころで、本日は長い時間を頂いてこの数ヶ月の間、わたくしが経験したこと、感じたことを皆様とシェアーしたいと思います。

9月の23日に私は白鳥さんとサッカー観戦をしました。白鳥さんは私がサッカーが好きなのを存知おられて、誘って下さいました。実は、日本に来て私はサッカーを2回観戦したことがあります。2回とも「アジアチャンピオンズリーグ」という試合ですけれども、アジア各国で行わ

れているリーグの中で3チームがこの試合に参加することができる試合です。ですので、中国のチームと日本のチームが対戦可能になり、私はその試合を2年連続見に行きました。しかし、今回のように日本国内のリーグ戦は初めてでした。まずは、ホーム応援団の迫力に感動しました。試合最初から最後まで応援の声や歌などが止まったことがなかったからです。そして、中国のリーグとは違う純粋なサッカーだと感じました。ご存知のように、中国はサッカーが他のスポーツに比べて弱いのです。人口がそんなに多いのに何で?と普通に思われるでしょう。一言で言うと、中国はコネクション社会だからです。私は日本の純粋なサッカー環境を見て、日本のサッカーがアジアの強者になっている理由が何となく分かりました。さっき、中国のコネクション社会という言葉を今まで皆さんがお耳に入ったことがあったと思います。今回のサッカー観戦を1例として具体的なイメージがつきましたでしょうか?アリババCEOである馬雲さんの語録にこのような話がありました。「アメリカで会社を経営するのが100メートル競走だったら、中国で会社を経営するのは100メートルハードルである」。つまり、あってはいけない障害がたくさんあるのです。それを乗り越えたければ、コネクションが必要ですね。難しいことなのですが、いつかは変わってほしいです。

以上は、白鳥さんとサッカー観戦しながら感じたことでした。

その翌日、私は韓国に行きました。今回、私が韓国にいる間はちょうど韓国の中秋節でした。実は中秋節は中国での呼び方であり、韓国では秋夕と呼びます。「月餅を食べるお祭り」と話した方が分かりやすいでしょうか。毎年旧暦の8月15日がこのお祭りになりますが、この日は家族団らんの日であって、今回は家族と一緒に過ごせて本当に嬉しかったです。「李 俊傑君は中国出身じゃなかったっけ?」と思われる方いらっしゃいますね?私は中国出身に間違いありません。韓国に行って家族団らんしたのは両親が韓国にいるからです。

実は今回、私は今交際中の彼女を家族に紹介しました。こんなことは初めてでしたので、楽しみや不安でしかたありませんでした。幸い、両親は彼女のことを好きがっていて良かったです。もちろん、私も彼女の家族にも挨拶をしました。結構いい点数を取ったと自分勝手に思います。短い時間でしたが、今回は両方の両親にも会えましたし、「これからの人生を二人で頑張るんだよ」のような祝福の話をいっぱい頂きました。来年4月から私は社会人になります。従来は一人で「なんとかできればいい」と思っていましたが、今は自分だけではなく、私のことを支えてくれる伴侶を考えても、精一杯頑張りたいと思います。

実は、今回韓国から戻って長い間悩んでいた問題の答えを得ました。「現地の人と外来者の間のトラブル」に関する問題です。なぜこんなことを考えていたかというと、中国の朝鮮民族は韓国でいつも現地の人に差別されると聴いてきたからです。私はずっと前から二つ課題を抽出しました。「外来者が現地のルールを守らなかったから差別される」か、それとも、「現地の人が差別するから外来者がルールを守らない」のか、みなさんはどっちだと思いますでしょうか?実は今回私が答えを得たきっかけは日本での出来事です。みなさんご存知のようにJR線の池袋駅、日暮里駅周辺には中国の方がたくさん住んでいます。私は日本に来て3年以上経ちましたが池袋駅は1回のみ、日暮里駅は行ったことがありません。ちょうどある日は友達と日暮里駅で待ち合わせをすることになりました。先に到着した私は改札口から出てしまいました。しばらく経つと、お手洗いに行こうと思って駅内でどう探してもありませんでした。スイカをタッチして入るとお金が取られるし、どうしようと考えましたが、やはりお金出しても手洗いが先だと思って、タッチして用を済ませました。しかし、改札口を出るときスイカをタッチしたら、赤ランプが点滅して、駅員さんのところに行きました。

私:さっき入ってきたのですが、このまま出たいです。(もちろんお金は払います)

駅員:どこへいきますか?

私:どこにも行きません、このまま出たいです。トイレに行ってきました。

駅員:トイレは外にもあるよ、一回入るとお金かかるからね

それほど変な会話ではないと思うでしょう?しかし、この方の喋り方、バカ中国人を見ているような顔は一生忘れられません。まず、外から

入るときはトイレのマークはどこにもありません。中から出るときのみ見えるところに貼ってありました。次に、お金がかかるのを知ってその手続きをしに来たのに、私の話は全然聞かないで対応するのは、私は違和感を感じました。私は事情を説明したかったのですが、後ろに並んでいる方も多かったので、そのまま駅を出ました。その時はすごく腹が立ちました。なんで私にそのように対応したのかを落ち着いて考えてみると、「あ、そっか!あそこは中国人がたくさん住んでいるところだったんだ」と思いました。特にルールを守らない中国人をいっぱい見かけた人は先入観に取られがちのではないか。そこで、さっきの外来者と現地の人のトラブルは結局、外来者が悪いことをしたからだと結論づけました。この問題についてまだまだ論争するところがあると思いますが、私は今のところはこのように理解しておきたいと思います。そして、現地のルールをちゃんと守りながら、仲良く過ごしていきたいと思います。ちょっと厳しい話題でしたが、米山奨学生になってからずっと前から悩んでいたことを自分で解けて本当に良かったと思います。

韓国から戻って一週間後、10月4日に米山梅吉記念館探訪研修旅行に行ってまいりました。国際ロータリー2790地区の24名の奨学

生全員と13名のカウンセラーが参加しました。旅の初めは米山梅吉記念館に訪れました。館内は複数の展示室に分けられていました。

■第一展示室

ポール・ハリスと米山梅吉、米日ロータリーの祖が迎えるこの展示室では、米山翁を生い立ちから紹介しています。

銀行家としての活躍、報恩会の事業の様子など公私共に携わった活動を知ることができます。

■第二展示室

米山の墨跡、書簡等を展示しています。

愛用の品を通じて一個人としての米山梅吉、その人生に迫ります。

■第三展示室

米山が創立に奔走した日本のロータリークラブ。

そのロータリークラブの歴史を、貴重な資料を交えてまとめました。

■ホール

春･秋例祭の会場。毎週水曜日には地元長泉RCの例会場になります。移動例会も受付けています。

プロのガイドさんが第一展示室から順に詳しく説明してくださって米山梅吉について認識が一層深まりました。貴重な歴史資料を拝見し終え、私たちはいよいよ米山梅吉氏のお墓まいりをやりました。外国人にとってそもそも日本のお墓まいりを体験するのは珍しいですが、みんな心から感謝の気持ちをもって真剣にやっていました。私も簡単な言葉ではありますが、心から「ありがとうございます」と言いました。

米山梅吉記念館を後にした私たちは簡単な昼ご飯を食べて、宿泊地に到着しました。奨学生みんなが興奮していました。到着した私たちは、まず荷物を置いて早速研修を行いました。主に、どうやって印象に残る卓話をするのかの研修でした。奨学生2人に卓話をしてもらって、どんな所が良かったか、不足点はなんだったのかを委員長から助言をいただきました。私も聴いて、なるほど…と思いながらちゃんとメモしました。

研修を終え、みんなの夕食の時間でした。実は、今回の研修旅行前は奨学生同士のコミュニケーションをとる場があまりありませんでした。顔はなんとか覚えているけど、どの国出身でお名前は何か、大学はどこかなどさっぱりわかりませんでした。しかし、研修旅行に行くバスの中で一人一人自己紹介したり、面白い話をしたりしながらかなり互いの距離が縮まりました。さらに、この夕食の時間を通して、ずっと声をかけたかった方にも声をかけて仲良くなりました。このようにビールを飲みながら話し合うと時間が経つのが誰も気が付きませんでした。また、その場ではカラオケも装備していて、ますます盛り上がりました。私は歌が上手い方ではありませんが、その時の心境を表現する「家族になろうよ」という歌を歌いました。みんなの歌声と歓談は11時過ぎても続いていました。私と同じ部屋の仲間たちは早く温泉に入りたくて先に宴会の場から退室しました。楽しい1日でしたけれども、やはり疲れました。温泉に入って部屋に入ったとたん布団のなかに入り込みぐっすり寝ました。

翌日は、バスで富士山五合目まで行くスケジュールでした。外国人にとって一番憧れの富士山にいきなり行くなんて、不思議だと思ってしまいました。写真はあまり撮れませんでしたが、今富士山だよと思うだけで嬉しいでした。簡単なお土産を買って次のスポットであるぶどう狩りに行きました。その場では食べ放題だよと聴いてみんなガンガンとっていましたが、結局食べきれなくて私はずっと食べてあげました。その後ぶどう狩りから車で5分ほど離れているワイン工場も見学しました。私は酒好きではありませんが、工場の雰囲気に乗って一本買っちゃいました。

これで、楽しい一泊二日の研修旅行が終わりました。今回の研修旅行を通じて何よりも奨学生みなさんといっぱい交流できたのが今回の一番の収穫でした。日本を中心に世界中の文化交流ができたのがミクロの国際交流ではないかと私は思いました。もちろん、二日間のなかで不愉快なことは一切ありませんでした。楽しい思い出になって本当に良かったと思います。

●ニコニコ・ソーリー

李　俊傑様

本日は卓話の機会をいただき、また奨学金もありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。勉強頑張ります。

三宅社会奉仕委員長

花と緑の会の皆さま、本日はお忙しい中例会に出席いただき誠にありがとうございました。

上野会員

李君、11/17の鴨川RCでの卓話がんばってください。会員の皆様米山への御寄附ありがとうございます。

角谷会員

孫が10歳になりました。無事に育ってくれて全ての人に感謝、感謝です。

万崎会長・平野幹事

光風台花と緑の会の皆さん、地域づくりいつもありがとうございます。益々のご活躍を祈念いたします。市原市楽友協会さま、招待ありがとうございます。李さん、卓話ありがとうございます。いつでも応援しています。

●出席報告

前々回確定 70.59%　本日出席28 名

欠席13 名　本日出席率 68.29%

■点鐘　　市原 RC 会長　万崎英正